

調査開発部
名古屋市特別活動協議会
資料

～教育課程における
タブレット活用展開例～

令和5年12月1日 愛生研

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特1-3

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① 事前に自分の考えをもたせロイロノートを使い、テキストで記入し、提出箱に提出させておく。
提出箱の共有をすると、児童が互いの意見を知ることができる。

学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の展開例③

題材名「おたのしみかいのけいかくを立てよう」(12月)

活用なまかなビジョン

- 1 本時の目標
みんなが楽しく遊んで、2学期の思い出を振り返ることができる集会の計画を立てることができる。【思考・判断・表現】
- 2 事前の活動
教師の指導の下、計画委員(司会グループ、提案者)が議題、役割(司会、副司会、黒板書記、ノート書記)、提案理由を検討し、決定する。また、集会でやりたいことを事前に児童に考えさせておく。
- 3 準備 司会原稿、提案理由の原稿、賛成・反対を示すマグネット、短冊
- 4 指導過程

学習活動	指導上の留意点
1 はじめの言葉	○ 事前に司会原稿、提案理由の原稿を用意しておく、児童が自信をもって臨めるようにする。
2 司会グループの紹介	○ 司会議題は『おたのしみかいをしよう』です。
3 議題、提案理由の発表	○ みんながより仲良くなるために、2学期を振り返りながら遊びましょう。
4 話合いのめあてと進め方の確認(めあてをつかむ)	○ みんなが楽しめる会にするための遊びを考えましょう。その後、その会を進めるために必要な係を考えましょう。
5 話合い	○ 「何をやりたいか」事前に考えたことを想起させ、「みんなが楽しめるか」で吟味させる。 ○ 生活班で話し合い、アイデアを短冊に書かせて黒板に貼った後、賛成意見や反対意見を出させ、めあてに沿った内容に絞る。 ○ 十分に話し合ってもまとまらなかった場合は「多数決をとる」「もう一度話し合う」などの方法を助言し、今後の決め方を話し合わせる。 ○ 集会に必要な役割については、生活班の数だけ出させ、生活班で分担できるようにすることで、今後の活動に取り組みやすくする。
6 決まったことの発表	
7 先生の話	○ 話合いのめあてに沿った意見を発表することができた児童を紹介し、認めるようにする。
8 終わりの言葉	

5 事後の活動 朝の会、休み時間を使って生活班ごとに準備を進めさせる。

特1-8

② 事前にロイロノートに残した、自分の考えを見ながら発表する。

③ 1つに決める際に、初めに自分が選んだ意見をロイロノートのテキストの色で選んで提出する。
意見が変わったら新たに提出しなおしていく。

3 タブレット活用の有効性について

- ① 事前に意見を集約する際に、ロイロノートの提出箱に提出させることで、教師が見るだけでなく、共有をすれば児童同士も互いにどのような意見をもっているのかを知ることができる。
- ② 事前に考えた意見を見ながら発表することができるので自分の考えを安心して発表することができる。
- ③ ロイロノートのテキストの色によって意見を分けることで、発言することが苦手な児童もどのように考えているのかの意思表示をすることができる。何度も提出をすることが可能なので、意見を聞いて変えていくことが可能となる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特2-6

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

事前 ロイロノートのカメラ機能を使って、これまでの活動内容を説明する画像や動画を記録しておく。

① ロイロノートのカメラ機能を使って、事前に録画したこれまでの活動内容を提示する。

② ロイロノートの生徒間通信機能を活用して、意見やアドバイスを送信し合う。
事前に意見やアドバイスを入力したカードを準備しておく。

サンキューカード
イラスト会社へ
イラストを書いてくれてありがとう。とっても上手だったよ。

アドバイスカード
かくしゅうかかりへ
かんじのものだのおもしろかったです。
いつか、さんすうもんだいをやってほしいです。

③ ロイロノートの「提出箱」を活用して、係活動の目標を表示する。

2 事前の活動
これまでの活動内容を見直し、係への要望に答えられる活動を考えるようにする。

3 準備 短冊、賛成・反対を示すマグネット、児童名を書いたマグネット

4 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>出し合う (1) これまでの活動を振り返り、ポスターや紙芝居等を作り、発表する。</p> <p>(2) よかったことや改善するとよいことをアドバイスし合う。</p> <p>2 くらべ合う 出されたアイデアを見て、それぞれのアイデアを「役立ち」「活躍」の二つの観点で比較する。</p> <p>3 まとめる(決める) どのアイデアを基に活動をレベルアップさせるのか決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 係グループごとにこれまでの活動内容や「しっかりできたこと」「困っていること」を発表させる。 ○ 「役立ち」「活躍」二つの観点を得点化し、頑張りを文章で表現するように助言する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin: 5px 0;">みんなが楽しい遊びをやりたければ、新しい遊びのアイデアが浮かびません。</div> ○ 自己評価の結果や友達からのアドバイスを聞き、今後の活動に生かせることを取り上げるように助言する。 ○ 「役立ち」「活躍」がともに同じアイデアのものは、実現可能かどうかを児童に考えさせ、係活動がよりパワーアップできるアイデアを考えさせる。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin: 5px 0;">鬼ごっこと玉入れを組み合わせると、鬼から逃げながら、玉入れをする遊びはどうか。</div> ○ 教師は、活動の見直しが進まない係グループの話し合いに入り、助言する。 ○ 活動の一つに決めることができない係グループには、二つの意見を組み合わせたり、順番に取り組ませたりすることで、活動内容を決定させる。


3 タブレット活用の有効性について

- ① ロイロノートのカメラ機能を使ってこれまでの活動を紹介する画像や動画を作ることで、自分の活動を振り返ることができる。また、画像を見せることで、自分たちの活動を友達に分かりやすく伝えることができる。
- ② ロイロノートの生徒間通信機能を活用することで、係グループの子全員へ意見やアドバイス書いたカードをコピーして送信することができる。
- ③ ロイロノートの「提出箱」を活用することで、今後の係のめあてを学級の児童全体に知らせることができる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特2-8

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程		指導上の留意点
	学習活動	
<p>① ロイロノートの提出箱を使い、やりたいことを事前に集める。</p> <p>② SKYMENUのポジショニング機能を使い、一人一人が自分の立場をマークし、可視化する。</p> <p>③ SKYMENUのポジショニング機能を使い、全員のマークを重ね合わせ、意見の傾向を提示する。話し合いで立場が変わったら、マークも動かす。</p> 	<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 司会グループの紹介</p> <p>3 議題、提案理由の発表</p> <p>4 話し合いのめあてと進め方の確認 (めあてをつかむ)</p> <p>5 話し合い</p> <p>(1) 自分の考えをもつ</p> <p>(2) なかまと対話する</p> <p>(3) まとめる</p> <p>6 決まったことの発表</p> <p>7 先生の話</p> <p>8 終わりの言葉</p>	<p>○ 事前に司会原稿、提案理由の原稿を用意しておき、児童が自信をもって臨めるようにする。</p> <p>○ 議題は『なかよししゅう会をしよう』です。</p> <p>みんながより仲良くなるために、2学期を振り返りながら遊びましょう。</p> <p>みんなが楽しめる会にするための遊びを考えましょう。その後、その会を進めるために必要な係を考えましょう。</p> <p>○ 「何をやりたいか」事前に考えたことを「みんなが楽しめるか」という視点で吟味させる。</p> <p>○ 生活班で話し合い、アイデアを短冊に書かせて黒板に貼った後、賛成意見や反対意見を出させ、めあてに沿った内容に絞る。</p> <p>○ 十分に話し合ってもまとまらなかった場合は「多数決をとる」「もう一度話し合う」などの方法を助言し、今後の決め方を話し合わせる。</p> <p>○ 集会に必要な役割については、生活班の数だけ出させ、生活班で分担できるようにすることで、今後の活動に取り組みやすくする。</p> <p>○ 話し合いのめあてに沿った意見を発表することができた児童を紹介し、認めるようにする。</p>

3 タブレット活用の有効性について



- ① ロイロノートの提出箱を活用すると、集まってきたアイデアが一目でわかり、共有しやすい。
- ② SKYMENU クラウドのポジショニング機能を活用することで、立場や考えを瞬時に可視化でき、全体の傾向をつかむことができる。
- ③ SKYMENU クラウドのポジショニング機能を活用することで、話し合っている間でも、立場や考えが変わった場合はすぐに変更することができる。また、発言が苦手な児童の考えも反映され、全員の考えで決定することができる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特2-10

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 実態や現状の把握(つかむ) アンケート結果や映像資料を提示し、学級全体で挨拶の様子について話し合う。</p>	<p>○ 挨拶をしてもらってうれしかった体験を発表し、挨拶の大切さに気付かせる。 ○ アンケート結果や自分たちが挨拶をしている映像資料を示し、日頃の挨拶の様子を振り返るとともに課題を見つけられるようにする。</p> <p> 下を見て挨拶をしている子が多いね。</p>
<p>2 原因の追求(さぐる) (1) 気持ちのよい挨拶ができない原因を考える。</p>	<p>○ 役割演技などを行い、気持ちのよい挨拶ができないときの気持ちを考える。</p> <p> 挨拶を返してもらえないと、悲しい気持ちになるよ。</p>
<p>3 解決方法等の話し合い(見つける) 「気持ちのよい挨拶」をすまじんに、気を付けて話し合う。 個人目標の意思決定(決める) 一人一人が今後のめあてをもつ。</p>	<p>○ 「あいさつ運動」の映像を見て、自分たちの挨拶との違いに気付くことができるようにする。 ○ 多くの方法を発表することで、一人一人がめあてをたてるときに、それらを比べながら、選んだり参考にしたりできるようにする。 ○ 本時を振り返り、今後自分がどのような挨拶をするか具体的なめあてや実践方法を決め、カードに記入できるようにする。</p>

① ロイロノートの色別テキストを提出させることで、アンケート結果を提示する。

② 挨拶できない原因をロイロノートのシンキングツール(PMI)を利用して考え、共有ノートで紹介し合う。

③ 生活委員会の挨拶運動の様子を動画撮影して映像をタブレット端末で提示する。

3 タブレット活用の有効性について


- ① ロイロノートの色別のテキストを教師に提出したものを全員分映し出すことで、それぞれの考えがすぐに共有できると共に、学級全体の傾向がすぐに把握できることでその後の話し合いに活かすことができる。
- ② シンキングツールを使って共有ノートを利用して考えさせることで、自分の考えをもつことが難しい児童も他の児童の意見を参考にして考えることができる。また、自分と似た考え、違った考えの理由から自分の考えを広げることができる。
- ③ 高学年の挨拶運動の映像を、個々のタブレット端末に送って手元で見せることで、細かな表情や相手の反応なども分かりやすく提示することができる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア


1 活用した教育課程の展開例 →特4-10

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① ロイロノートのアンケート機能を活用して、集計結果をグラフで提示する。



② ロイロノートのシンキングツールを活用して、自分の考えを図に表し、考えを共有する。



4 指導過程

学習活動	指導上の留意点
<p>1 実態や現状の把握 (つかむ) 学級生活の中で、きまりを守れていない様子を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートの結果を掲示し、どのような場面できまりを守れていないのか共有する。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 「ろうかを走っている子がたくさんいます。持ってきてはだめなものを持っている。」 </div> ○ 個人が責められることのないように配慮する。 ○ きまりが守れていない場面を想起させ、どんな気持ちになったのかについても確認する。 ○ グループに分かれて、いくつかのきまりを守れていない場面の原因を話し合う。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 「早く運動場に行きたいのかな？」 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; margin: 5px 0;"> 「自慢したいから持ってくるのかな？」 </div>
<p>2 原因の追求 (さぐる) なぜそのようなことが起こるのか、原因について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どうすればきまりを守ることができるのか、意見を発表させ、板書する。 ○ グループで発表し合う場合は、付箋紙を配り、付箋紙にアイデアを書かせる方法が意見をまとめたり、分類したりするのによいことを伝える。
<p>3 解決方法等の話し合い (見つける) どうすればきまりを守ることができるのか、方法を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時を振り返り、今後自分がどのようにしてきまりを守っていくか、具体的なめあてや実践方法を決め、カードに記入できるようにする。 ○ 教師の力で解決するのではなく、自分の力で解決できるような方法を考えさせるようにする。
<p>4 個人目標の意思決定 (決める) 自分が頑張りたいことを考えて「がんばりカード」に書く。</p>	

③ ロイロノートの提出箱を活用して、自分のめあてを表現する。

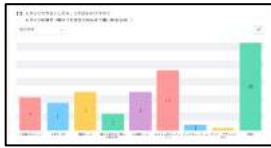

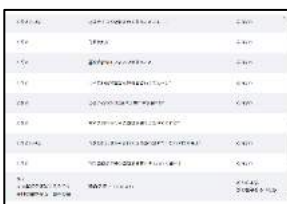
3 タブレット活用の有効性について

- ① ロイロノートアプリのアンケート機能を活用することで、集計結果が分かりやすくなり、学級全体の考えをすぐに集計し、表示することができる。学級の児童の考えを集約する手間が減り、時短になる。
- ② ロイロノートアプリのシンキングツール機能を活用することで、自分の考えを図に整理し、考えを共有することができる。発言が容易でない児童も、考えを簡単に表現する機会になる。また、ロイロノートの共有ノートの機能を活用することで、シンキングツールを小グループごとに設定して、話し合い活動に活かすこともできる。
- ③ ロイロノートアプリの提出箱機能を活用することで、今後の自分のめあてを端的に表現することができ、全員のめあてを簡単に確認することができる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

- 活用した教育課程の展開例 → 特5-4
- 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>① アンケート機能を活用して集計結果をグラフで提示する。</p> 	<p>1 めあてをつかむ グラフからみんながキャンプファイヤーでどんな出し物をしたいと思っているのかつかむ。</p> <p>2 自分の考えをもつ どの出し物をしたいのか考えをもつ。</p>	<p>○ 現6年生の昨年のお話や事前のアンケート結果をグラフにした資料を提示し、特に数が多い項目や似た内容の項目に着目させるようにする。 特に『お笑い』や『ゲーム』が多いね。 『クイズ』と『ゲーム』は似ているね。</p> <p>○ グラフを基にして、どの出し物をしたいのか、理由と共にワークシートに書かせるようにする。 キャンプファイヤーは、楽しいものだと思うから『お笑い』を入れたいな。</p>
<p>② 提出箱を活用して、今の自分の考えを端的に表現し、共有する。</p> 	<p>3 なかま対話する 学級全体で話し合っどどの出し物を採用するか決める。</p> <p>4 まとめる、振り返る (1) 全体で案を吟味し、出し物を決定する。 (2) 小グループで話し合っど、出し物の案を考える。</p>	<p>○ ワークシートを基に、どれをキャンプファイヤーの出し物にしたいのか理由と共に発表させ、それに対して意見を求めるようにする。</p> <p>○ 同じような項目はまとめさせ、話し合いや多数決で3～5個程度の項目まで絞るようにする。</p> <p>○ なるべく出された意見を採用するために、出し物は合体してもよいことを伝え、話し合いや多数決でキャンプファイヤーの出し物を決定する。</p> <p>○ 4人程度のグループをつくり、決まった項目を基にキャンプファイヤーの出し物の案を考えさせ、短冊画用紙に書かせるようにする。</p> <p>○ 児童が熱心に取り組んでいた部分を取り上げ、認めるようにする。</p>
<p>① アンケート機能を活用して、学級会の振り返りを行う。</p> 	<p>5 先生の話</p> <p>③ 話し合いの流れやポイントをパワーポイント等で作成し、テレビに提示して子どもたちに意識させる。</p>	<p>決まっていること 10分程度の時間 5-1が司会をする 練習はほとんどできない スタンプの条件 ・毎くてもできる ・116人で楽しめる ・火のそばでも安全</p> <p>まとめる 意見を共有させる。意見相違点を決める条件をつける。話し合う準備を行う様子も提示する。</p> <p>・できるだけ多くの意見のよさを生かそう ・自分にとってみんなにとっても良いことを決めよう</p>

3 タブレット活用の有効性について

- ロイロノートアプリのアンケート機能を活用することで、集計結果が分かりやすくなる。まとめる場面でも多数決の結果などをすぐに集計し、表示することができる。また、学級会の振り返りも集約する手間が減り、時短になる。
- ロイロノートアプリの提出箱機能を活用することで、出された意見に対しての児童一人一人の考えを端的に表現することができる。反対か賛成かの確認が全員でできるので、発言の内容を考えた司会進行ができる。発言が容易でない児童も、自分の考えを簡単に表現する機会になる。
- 事前に話し合いの流れや注意してほしいポイントを、パワーポイントやロイロノートのカードなどで作成しておくことで、スクリーンやテレビに常時提示することができ、話し合いの進行が容易になる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特6-6

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>① ロイロノート のアンケート機 能を活用して、 グラフ資料を提 示する。</p>	<p>1 めあてをつかむ グラフから今の学級 に対してどのような思 いをもっているのかを つかむ。</p>	<p>○ 事前のアンケート結果をグラフにした資料を 提示し、今の学級に対してできていないと思っ ている内容の項目に着目させる。</p> <p>『優しい』は達成できているね。</p> <p>『協力』と『けじめ』は少し低いね。</p>
<p>② ロイロノート のシンキングツ ールを活用し て、比較整理し て、自分の考え を決定する。</p>	<p>2 自分の考えをもつ グラフのどの項目に 力を入れるとよりよい 学級になるのかについ て考えをもつ。</p>	<p>○ グラフを基にしてどの項目を見直していくと よいか、理由と共にワークシートに書かせるよう にする。</p> <p>『協力』ができれば、6年生として団 結して行事を成功させることができそう！</p>
<p>③ SKYMENU のポジショニ ング機能を使い、 一人ひとりの立 場を可視化し、 全体の傾向を提 示する。</p>	<p>3 なかま対話する (1) 学級全体で話し合 ってどの項目を見直 していくのかを決め る。 (2) ホグループで話し 合って、学級目標の改 訂案を考える。</p> <p>4 まとめる・振り返る 全体で案を吟味し、学 級目標を決定する。</p>	<p>○ ワークシートを基に、どの項目を見直したいか 理由と共に発表させ、それに対して意見を求める ようにする。</p> <p>○ 話し合いや多数決を通して、現段階の学級の実態 に合った項目に絞っていくよう声を掛ける。</p> <p>○ 4人程度のグループをつくり、決まった項目を 基に学級目標の見直し案を考えさせ、画用紙に書 かせるようにする。</p> <p>○ 案が書かれた画用紙を黒板に貼り、話し合いや多 数決でどの改定案に取り組むのかを決定するよう 指示をする。</p> <p>○ 児童が熱心に取り組んでいた部分を取り上げ、 学級目標に照らして認めるようにする。</p>

3 タブレット活用の有効性について

- ① ロイロノートのアンケート機能を活用することによって、アンケート結果を瞬時に可視化・共有できる。
- ② ロイロノートのシンキングツール機能を活用することによって、出された意見を比較・整理しやすくなり、それぞれの意見の相違点や関連性、重要性などを捉えやすくなる。
- ③ SKYMENU のポジショニング機能を活用することによって、全体の傾向を常時把握することができるので、話し合い活動を活性化させたり、話し合いの道筋をイメージしたりすることができる。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 学活-60「職業のつながり」

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① 職業に関する動画やはたらく様子の写真などをTVに投影し、議題に関する関心を高める。

② ロイロノートの共有ノートを開き、個人で3つのカードに書き込む。

③ グループ内での発表用カードを作り、発表しながら個人のカードを貼り付けていく。

④ グループ内での発表用カードに貼り付けられたカードを線で結ぶ。

⑤ グループ内での発表用カードを提出し、回答共有して互いに確認する。

4 指導過程

学習活動	指導上の留意点			
<p>1 本時のねらいを知る。</p> <p>2 自分の考えをもつ。 (1) 興味のある職業を三つ付箋に書く。 (2) 三つの職業について、それぞれ自分が考える「社会での役立ち」を書く。</p> <p><例></p> <table border="1"> <tr> <td>医者 人の命を守る</td> <td>プログラマー 生活を便利にする</td> <td>アイドル 人を笑顔にする</td> </tr> </table>	医者 人の命を守る	プログラマー 生活を便利にする	アイドル 人を笑顔にする	<p>○ 自分の考えと級友の考えを結び付けて、新しい「職業のつながり」を見付ける活動であることを伝える。</p> <p>○ 職業名を挙げやすくなるために、興味のある職業についてのアンケートを一覧にまとめておく。</p> <p>職業名や「社会での役立ち」を付箋に記入するようにすると、模造紙にまとめやすくなります。また、グループのメンバー人ずつ付箋の色を指定すると誰の意見かを確認することができます。</p> <p>○ 「社会での役立ち」について、「医者」や「消防士」などを例に挙げ、「人の命を守る」などの具体例を示すと考えやすくなる。</p> <p>○ 人それぞれの考え方があるので、「社会での役立ち」は違っていてもよいことを確認する。</p> <p>○ 各自で発表しながら模造紙に付箋を貼り出すように指示する。</p> <p>○ 貼り出された職業について、新たな「社会での役立ち」についての意見が出たら、書き足してもよいことを伝える。</p> <p>○ 同じ「職業」は二重線で結び、同じ「社会での役立ち」は線で結ぶように指示する。</p> <p>○ 各グループでまとめられた模造紙を黒板に掲示して、学級全体で共有できるようにする。</p>
医者 人の命を守る	プログラマー 生活を便利にする	アイドル 人を笑顔にする		
<p>3 グループ内で発表し合い、考えをまとめる。 (1) 発表し合いながら、付箋を模造紙に貼る。 (2) 同じ「職業」及び同じ「社会での役立ち」を線で結び、関係付けを行う。</p> <p><例></p>	<p>○ 「社会での役立ち」について、「医者」や「消防士」などを例に挙げ、「人の命を守る」などの具体例を示すと考えやすくなる。</p> <p>○ 人それぞれの考え方があるので、「社会での役立ち」は違っていてもよいことを確認する。</p> <p>○ 各自で発表しながら模造紙に付箋を貼り出すように指示する。</p> <p>○ 貼り出された職業について、新たな「社会での役立ち」についての意見が出たら、書き足してもよいことを伝える。</p> <p>○ 同じ「職業」は二重線で結び、同じ「社会での役立ち」は線で結ぶように指示する。</p> <p>○ 各グループでまとめられた模造紙を黒板に掲示して、学級全体で共有できるようにする。</p> <p>【応用例】「社会での役割」ごとに分けてもよい</p>			
<p>4 他のグループと互いの模造紙を見合い、「職業」と「社会での役立ち」について、気付いたことや新しく発見したことをワークシートに記入し、発表し合う。</p>	<p>○ 社会にある職業には、それぞれ必要とされる役割があり、職業を選択する上で大切な要素であることを押さえる。</p> <p>○ ポートフォリオにファイリングし、係活動や当番活動、委員会活動、学校行事等における自己の役割に目を向けるきっかけにするとよい。</p>			

3 タブレット活用の有効性について

① 共有ノート機能を活用することにより、手元のタブレットでグループ全員のカード操作を行いながら発表を行うことができる。また、模造紙のスペースも不要なことから、グループの座席配置生徒も自由にレイアウトすることができ、より話し合いの進む環境作りを行うことができる。

② 「付箋に書く、模造紙へ貼る操作活動」よりも話し合いながらの操作が容易なため、多様な考えに触れることができたり、それぞれの考をもっている人数も明らかになりやすいことから、意見選択の幅が広がる。

また、関連が分かりやすく、その関連職業を一つのカードに関係づけることができるため、特定の職業に固執している場合でも、考えの幅を広げやすい。

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 学活-68「2学期の目標づくり」

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

① アンケート機能を活用して、集計結果をグラフで提示し、4月と9月の変化をつかむ。

② ポジショニング機能を使って、生徒が考える学級の状況を把握する。

③ ロイロノートふせんを使って、提出させ、「良いところ」「改善すべきところ」「改善案」などを集約する。

4 指導過程	
学習活動	指導上の留意点
1 話合いのめあてをつかむ。 	○ 話合いのめあてを黒板に示しておく。 学級目標の到達度評価用紙の4月と9月の違いに注目して、2学期からの学級の目標や自分ができようことを考えましょう。
2 学級の現状を共有する。 (1) 学級目標の到達度評価用紙を見て、気付いたことを発表する。 	○ ワークシートは事前に配付し、あらかじめ学級目標の到達度評価用紙を見て気付いたことを記入させておく。 けじめがつけられるようになったから「切り替え」が増えているのかな。「仲良く」が減っているのは、みんなと話ができないからかな。
(2) 学級のよいところと今後の課題を考え、ワークシートに記入する。 「よいところと今後の課題について全体に発表し、全員で共有する。」 	○ 学級のよいところと今後の課題を捉えるために、学級目標の到達度評価用紙の4月と9月の違いに着目することを司会から伝えるように促す。 ○ ワークシートに記入した後は、よいところと今後の課題で色分けをした短冊に書いて、発表の準備をしておくようにする。 発表する際は、黒板係が短冊を黒板に貼ることで、全員が学級のよいところと今後の課題について、一目で捉えられるようにするとよいでしょう。
3 2学期の学級目標について話し合う。 (1) よいところと今後の課題を基にグループで2学期の学級目標について話し合う。 	○ 「黒板に貼ってある短冊に注目」して、学級のよいところを伸ばしつつ、今後の課題を解決するための目標案を考えるように声を掛けることを司会に助言する。 ○ 組はけじめがつけられているから、あとは2学期の行事でみんなが笑顔で過ごすことができれば、「仲良く」なれるはず。2学期の目標は「どんなときでも、どんなことでも話し合い、行事に向けて一つになるよう」にしよう。
(2) グループで出された意見を発表し、2学期の目標について全体で討議する。 	○ 2学期の目標を発表する際は、理由を示しながら述べることを司会が伝えるように促す。 ○ グループから出された意見を全体で討議する際は、似たような意見をまとめると集約がしやすくなる。
4 2学期の学級目標を基に、2学期の個人目標を考える。	○ 自分の長所を生かして、自分ができようことをワークシートに書くように促す。

3 タブレット活用の有効性について

- ① アンケート機能を用いることで、学級目標の到達度を数値化することが容易である。また、その通知をレーダーチャートやグラフなどで示すことで、月ごとの変化について視覚化でき、どの点が伸びていて、どの点が改善すべきなのかを把握しやすい。
- ② ポジショニング機能を用いることによって、学級の現状について即時的につかむことができる。また、数字では表されない、生徒一人一人の考え方も瞬時に見ることができる。
- ③ ロイロノートのふせんを使うことで、学級の「良いところ」「改善すべきところ」「改善案」を色分けして集約することができる。そうすることで、それぞれの意見の数や内容の違いを把握しやすくなる。